

世界漫遊特集 vol.1 2015年7月号

「女娘的店」台湾・台北

文・蒲原彩乃

故宮博物院からタクシーに乗って20分ほどのところにある「女娘的店」に初めて行ったのは、社員旅行で台湾を訪れた一昨年の12月のことでした。「女娘的店」は台湾の家庭料理を出す有名なお店です。赤提灯の揺れる門をくぐるとすぐ、自分が生まれる前の時代にタイムスリップしたような感覚になったのを覚えています。

店の中に入ると、木で作られた丸いテーブルと椅子、そしてどこか懐かしい柄の椅子にかけられたカバーが目に入ります。台湾の歌謡曲らしき歌が流れ、食堂のおばちゃんのような親しみやすい風貌の店員さんがメニューを持ってきてくれます。

その日は私の誕生日で、台湾ビールで母と乾杯し、大好きな青椒肉絲（チンジャオロース）と炒飯、あさりの炒め物と鯛のあんかけを注文。やはり日本とは違い、一皿に盛りられている量も家庭料理並み。4〜5人で分けてちょうど良い量かもしれません。

母と二人、ビールを飲みながらおいしいおいしいと平らげ、すぐに満腹になりました。



(右) 立派な門にぶら下がる赤提灯。

(左) 懐かしい商店のような風景が広がる。



今年の2月に訪れた時は、母と二人の家族旅行でした。前回社員5名で店に入った時とは違い、通されたのは中華料理特有の回転式の円卓もない少人数用のテーブル。昭和に生まれ青春時代を過ごした母はそんな簡素なテーブルに尚更ノスタルジーを感じたようでした。

店の入り口にも大きな提灯が。中華の雰囲気も漂う不思議な空間です。



台湾ビールと青椒肉絲(手前)と炒飯(左)とあさりの炒め物(奥)。二人で食べるには十分すぎる量です。



店には2階もあり、カラオケが設置されているようです。主に流れているのは歌謡曲。1階にいた私達は、2階から流れてくる台湾人女性の歌声を聴きながらビールを飲んでいました。その時2

階にはどうやら日本人のおじさま達もいたようで、日本の昭和歌謡曲をリクエストされ、美空ひばりや演歌などもその台湾人の方が情緒豊かに歌っておられました。

店主さんは日本語はできませんが、私たちが日本人とわかっていただけからかお会計の時には日本語でお勘定を言ってくれ、片言の英語で前日市場で買って被っていた毛糸の帽子も照れながら褒めてくれました。店の雰囲気は温かいのは店のつくりだけでなく、この店主さんの人柄でもあるのかなあと思った瞬間でした。



昭和を舞台にした映画でよく観る商店や駄菓子屋のセットの中にある感覚は、門にぶら下がり風に揺れる赤提灯の下をくぐると自然に抜けていきます。そこは天母と呼ばれる外国人が多い地域で、門の外は現代の台湾。あの不思議な感覚はあの門をくぐらないとわかりま

アクセス



故宮博物院より車で15分、台北駅から車で30分ほど。MRTで近くまで行き、駅からタクシーに乗るのが最適かも。タクシーの運転手さんに漢字を見せればすぐにピンと来るほど有名なお店です。

住所：台北市天母東路97號

電話番号：02-2874-1981

少しさびれた車のおもちゃ(右)と学校の机のようなもの(左)まで。ノスタルジーを感じますね。



せん。ぜひ訪れていただきたい店の一つです。

定番メニューの空心菜の炒め物や東東坡肉(トンポーロウ)。これまた台湾ビールとよく合います。

